

高裁・田谷を糾弾し、再審査徹・石川氏奪還へ闘いぬく！

石川一雄氏不当逮捕一六ヶ年を糾弾し、再審査要求する5・23狭山中央総決起集会は、労農水の大合流によって大成功をおさめた。勤労千葉は階級的戦闘的労働運動を闘う者の責務にかけて、「本部」暴力集団の敵対をはねかえし青年部を中心とする約五〇名の決起をもって、最後まで毅然として闘いぬいた。今日、検察意見書に表わされた石川氏を犯人と決めつけ、そのためにはありとあらゆるペテン、ウソ、こじつけを総動員して、再審査請求却下・七七年上告棄却維持・石川氏有罪を貫こうとする攻撃が強められている中で、再審査実調べを何としても実現し、石川氏を奪いかえすために、5・23を闘いぬいた力を更に発展させ、闘いの強化をかちとっていく。

反対同盟迎え、熱気あふれる集会かちとる。

集会は、三里塚反対同盟・戸村、北原、小川源、鈴木の各氏を迎え、西岡狭山闘争本部事務局長の基調報告と行動方針の提起に続き、社会、公明党、東京地評、同和教育推進委員会、「障害」者解放委員会、さらに自らの差別性との闘いに決起した宗教学家など、各界からの石川氏奪還を訴える発言を受けていった。続いて解放同盟婦人部、青年部、全国子供会の各代表の、「石川氏の苦しみを自分の苦しみとし、差別されているからこそ人間の尊厳と、闘うことの尊さを理解し、石川氏即時奪還へ、三里塚と結合して力いっぱい闘う」という熱意あふれる決意表明が行なわれた。狭山再審査護団・山上弁護士からは、検察意見書に徹底的に反論した反論書を提出してきた旨と、脅迫状の筆跡と日付に関する新証拠の発見によって、権力犯罪の姿が決定的に明らかになった。石川氏奪還まで闘いぬく旨の報告と決意の表明がなされた。これから全国オルグに出發するという大行進団の上杉団長の決意に続いて、獄中の石川一雄氏のメッセージが読みあげられた。

「必ず再審査を実現し、次に挨拶する時は万余の皆様の前で…」

石川氏メッセージ

「文字を覚えることから始め闘い続けた一六年間は短く感じられた。明日の勝利を信じて不屈に



5万人の解放同盟・労働者・人民と共に闘う勤労千葉 (明松園)

闘ってきたその闘魂は変わらない。私の青春を破壊した権力者に鉄槌を下さずにはいられない。再審査却の可能性の強い中で、再審査を保障するものは支援者の力にかかっている。この次に挨拶する時は万余の皆様の前であることを念じつつ」という内容の、再審査実現へ向けた血のにじむような決意の表明と支援者への訴えが行なわれた。八〇才を越えた父富造さん、母リイさんは、息子の無実を身体を怒りに震わせながら一つ一つの事実をあげて訴えられ、この石川氏と御両親の血を吐くような訴えに対して、集会参加者は石川氏奪還へ向けた決意をさらに深く打ち固めたのである。集会決議採択とシュプレヒコール、団結ガンバローを三唱し、意気高くデモ行進に出發した。

解同千葉県連の旗のもと 意気高くデモを貫徹

われわれは、解放同盟千葉県連の旗のもと共にスクラムを固め、東京サミットをひかえ危機にさらされて戦う戦列の破壊を狙う権力の三〇数名(千葉県連一名)にのぼる不当逮捕をはねかえし、全通、電通その他多くの仲間と共に最後まで毅然と闘いぬいたのである。

この日、中央共闘に結集する総評内各単産は、いくつかの労働員を除いてほとんど姿を見せず、その御都合主義と差別的体質をさらけ出した。なかでも「水本」運動を政治利用主義的にもちこみ、